

## 男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

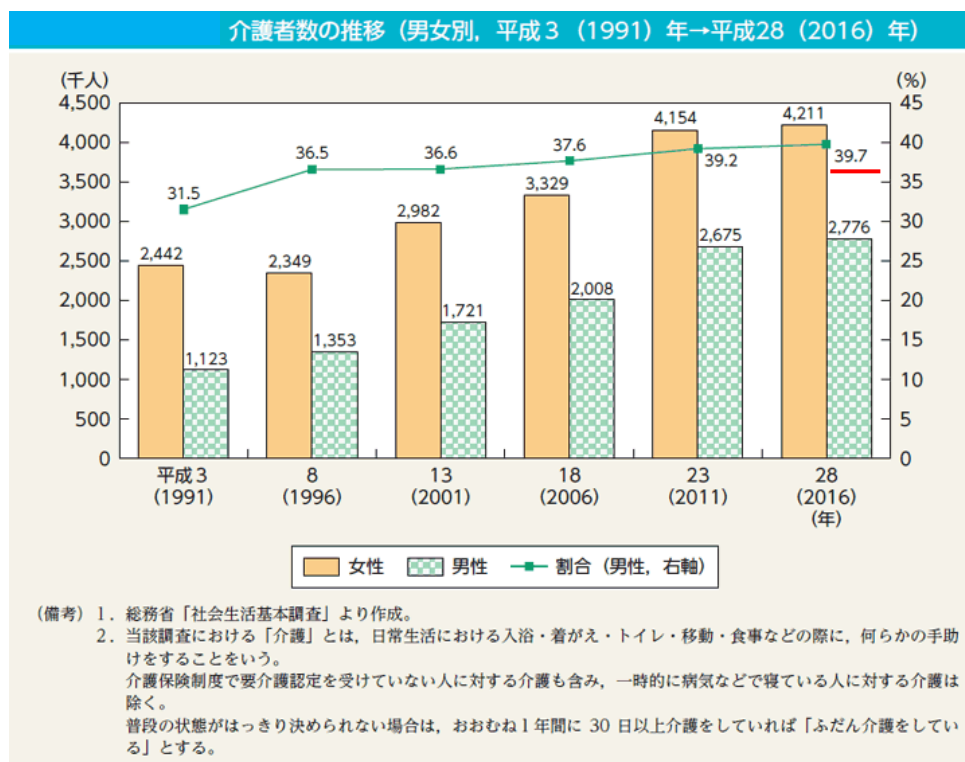
Q74 介護が必要な者がいる家庭では男性の介護者が増大していると耳にしますが実態を教えてください。

### A74 1 介護が必要な者がいる家族

(1) 介護を行う者の概況

(介護者の男性割合が増大)

15歳以上でふだん家族を介護をしている人（以下「介護者」という。）は、近年、男女ともに増加しており、平成28（2016）年では男性介護者は277万6千人、女性介護者は421万1千人となっています。これは、平成3（1991）年と比較して、男性介護者は2.5倍、女性介護者は1.7倍です。平成28（2016）年において介護者全体に占める男性の割合は39.7%となっています。



## 2 同居の主たる介護者の推移

### (1) 家族の介護の担い手の多様化

#### (男性の介護者が増化)

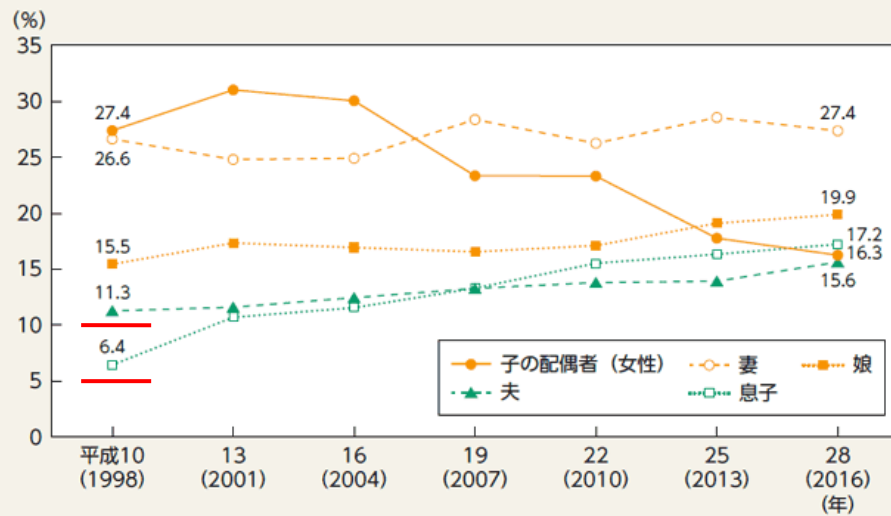
男性の介護者が増加してきたのは、配偶者の親を介護する女性すなわち「嫁が舅や姑の介護をする」パターンが減り夫婦がそれぞれ実親の介護を担うパターンが増えたことや、未婚男性が親を介護したり既婚男性が配偶者を介護したりという形で介護を担う男性が増えてきたことが背景にあると考えられます。

同居の主な介護者を続柄別に見ると、平成10（1998）年に最も多かった「子の配偶者（女性）」（27.4%）が平成16（2004）年以降に大きく減少し、直近では16.3%となっています。一方、平成10（1998）年当時には6.4%であった「息子」及び11.3%であった「夫」が増加し、それぞれ17.2%、15.6%となっています。

妻が夫の介護を担うパターンが多く、期間を通じて25～28%前後で推移しています。しかし、その他の続柄においてはそれぞれが占める割合の差は急速に縮小しており、平成10（1998）年においては、最小の「息子」（6.4%）と最大の「子の配偶者（女性）」（27.4%）の差は21%ポイントの範囲で散らばっていたものが、平成28（2016）年においては、最小の「夫」（15.6%）と最大の「娘」（19.9%）とわずか4.3%ポイントの範囲に収束しています。このことから、家族の介護の担い手が近年多様化しており、その中で男性が家族の介護を担うことが決して珍しくはなくなってきたことが分かります。

家庭における介護は、様々な続柄の者が行うようになり、また、単独で介護をする場合もあれば、複数で分担をして行う場合もあるなど多様な形が想定されることから、現在は、女性だけでなく男性も介護を担うことが増えていると考えられます。

### 同居の主たる介護者の推移（続柄別，平成10（1998）年→平成28（2016）年）



（備考）1. 厚生労働省「国民生活基礎調査」より作成。  
 2. 当該調査における「主な介護者」とは、主な介護者とは、「介護を要する者」を主に介護する者（配偶者，子などの家族や親族等と訪問介護事業者）をいう。

### 3 外部サービスの利用

#### （介護サービスなど）

介護をしている本人に対して，介護内容ごとに，自分以外に介護を担っている人について聞くと，「介護サービスや，ボランティア等の外部の支援」は，最も多いものでも「入浴介護」で27.8%であり，外部支援に頼らない介護をしている場合が多いことがうかがわれます。「入浴介護」以外は，「もっぱら自分が手助け・介護を行っていて，他者の支援は受けていない」という回答割合が最も多く，2～3割台となっています。

介護については，「外部サービスを利用しながら行いたい」とする回答割合が，70歳以上を除き，男女ともにいずれの年代も6割を超えています（女性の70歳以上は50.7%，男性の70歳以上は49.6%）。特に回答割合が高いのは，女性の30代（76.1%）及び40代（75.0%）です。